

自分もみんなも 明るく うれしく よかったね

4月号

新井中央小だより

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html> No.248

メールアドレス chuou@ac.city.myoko.niigata.jp 2020（令和2）年4月24日

希望

新型コロナウイルス対応で激動の年度末、そして、今年度の1学期スタートでした。校内放送等も駆使して、限られた条件の中ではありますが、新任式、始業式、入学式ができたことは、ありがたいことだと思っています。その後、欠席者ゼロ、全校児童327名全員登校の日が4日間も続きました。昨年度1年間で全員登校の日は2日しかありませんでしたから、新年度早々、記録更新でした。「学校へ来たかったんだなー。みんなといっしょに学習したかったんだなー。」と改めて感じました。

喜んだのもつかの間、緊急事態宣言が全国に拡大して発せられ、妙高市も小中学校、特別支援学校について臨時休業を決めました。4月25日（土）～5月6日（水）までゴールデンウィークを含めて12日間の休みとなります。臨時休業に入るにあたって、子どもたちに校内放送で話をしました。（3密を避けるため、全校集会は開けません）

「3月も急な臨時のお休みがありました。みんなががんばって感染を防いで、やっと新学期から学校が始められていたので、また、お休みで残念に思っている人も多いと思います。校長先生も残念な気持ちは、みなさんと同じです。でも、今、大切なのは、一人一人が自分のできることをして、みんなで新型コロナウイルスの感染の広がりを防ぐことです。（中略）みんなでおもいきり学習したり、遊んだりできる日が必ず来ます。そのために、みんなで助け合って、今できることをしっかりやっていきましょう。」

子どもたちに説明し、納得して休みに入ってもらいたいという思いで話をしましたが、同時に自分への叱咤激励の言葉でもあったように思います。

先日、たまたま、テレビで新型コロナウイルス関連の特集を見ていて、心に残ったことがありました。発展途上国で、感染症予防の活動をずっと続けてきた専門家の方の話です。「現地の方々に感染症予防の行動を実践してもらおうと、一番大変でもあり、大切だったのは、希望をもってもらうことでした。ギリギリの生活を送る現地の人々にとって、明日への希望をもつことは、感染症予防の上でも重要でした。」

この言葉に、私は、校歌の一節を思い浮かべました。

「忘れない今日という日。信じてる明日という日。」

希望はあります。毎日、のぼり旗を持って、進んであいさつ運動をしてくれる6年生。止まってくれた車にペコリとあいさつする子どもたち。タンポポの綿毛を大切そうに握りしめて登校する1年生。「ぼく、いっぱいある場所知ってるんだ。」枯れススキを毎日、一本ずつ取ってきて見せてくれる男の子。「校長先生にちゃんとあいさつした？」弟にあいさつ指導するお兄ちゃん。「昨日、お母さんが来たと思いますが、ありがとうございます。」保護者面談のお礼を言ってくれる女の子。・・・日々の何気ない子どもたちの姿が、私の希望です。

どんな望まない出来事の中にも学ぶべきことはあります。今回、私が学んだのは、守るべきものを守るための「決断」です。大運動会は、中止とさせていただきます。どうか、ご理解とご協力をお願いします。困難の時だからこそ、ともに歩んでいきたいと思っています。

校長 加藤 晃

